

プログラムの概要

教育学部は、「人に対して教える・人を育てる」ということを大切にしたい学びを行います。この学びを社会のあらゆる場で生かすために、学校教育現場において教員として活躍する人を養成する「学校教育教員養成課程」と、教育学部の幅広い学びを活かしながら、複雑で多様な現代社会において学際的な教養人として活躍する人を養成する「総合人間形成課程」の2つの課程で構成されています。

「学校教育教員養成課程」では、教員免許状を取得することを最大の目的としながら、教員になるにあたっての専門的知識に加え、現代的諸課題に対応した幅広い教養を総合人間形成課程の開講科目から吸収することができます。一方、「総合人間形成課程」では、自律的な自己設計によるカリキュラム設計をする中で、その骨組みの中に人間教育のありようとして学校教育教員養成課程で開講されている科目を反映させることが可能です。このように、教育学部では課程制の強みを生かすことで、カリキュラムの柔軟性を高め、教員組織の相互交流を実現しており、学生の多様な学びに対応することが可能になっています。したがって、この2課程は不可分の存在であり、相互補完的な関係（互恵関係）と言えます。

「総合人間形成課程」では、学際的な課題が山積する現代社会において、その今日的な諸課題に対応できるような学びを行うために、教育学部の専門性を6つの領域（人間発達領域・言語文化領域・地域公共領域・環境創造領域・芸術文化領域・スポーツ健康領域）に分けて、それらを学生自身の設定したテーマに応じて比較柔軟に履修ができるようになっています。学生の自己設計を基盤に、将来のキャリアを明瞭にしなが、多様な学びを活かした自己形成を目指します。

また、6つの領域とも次のような特徴を持っています。

- 特定の教科のみにとどまることなく、教科横断的な学習、学際的・領域統合的な学習を行うことが可能であり、特定の専門を深化させることとのバランスを保つことができます。
- 少人数制での演習や実習等を積極的に採り入れており、主体的に思考する機会に恵まれ、きめ細かな実践体験を通して、教養育てる存在になる意識と自信を高めます。
- 課程制の利点を活かし、学部内のあらゆる教員との交流を促進し、多くの教員からの多様な指導が受けられるように配慮しています。
- ポートフォリオ等で学期毎に履修状況を確認・点検することを通して、学生に自己省察を行ってもらっています。また自己形成に積極的に取り組めるよう適宜アドバイスを受ける機会を用意しています。

達成目標

【教育学部】

- 教育の視点に基づいた人間の発達と社会や文化の形成に関する知識を修得し、自らの専門分野について深く理解している。
- 教育の視点に基づいた人間の発達と社会や文化の形成における普遍的・今日的課題について考察し、その解決に向けて適切に判断できる。
- 教育の視点に基づいた人間の発達と社会や文化の形成に関する活動に取り組むため、専門的技能と幅広い表現力を身につけている。
- 実践と省察により自らを高めていく課題を設定し、その解決に向けた主体的な取り組みができる。
- 社会人としての自覚と責任感をもち、多様な人々と共生しながら社会に貢献できる。

【総合人間形成課程】

- 社会や文化の形成に関する知識を修得し、自らの専門領域について深く理解している。
- 知識基盤社会における普遍的・今日的課題について考察し、その解決に向けて適切に判断できる。
- 社会や文化の形成に関する活動に取り組むため、専門的技能と幅広い表現力を身につけている。
- 実践と省察により自らを高めていく課題を設定し、その解決に向けた主体的な取り組みができる。
- 社会人としての自覚と責任感をもち、多様な人々と共生しながら社会や文化の形成に貢献できる。

履修条件（アドミッション・ポリシー）

1. 求める学生像

複雑で多様な社会に貢献できる教養人の養成を目的とする総合人間形成課程では、次のような資質・能力を身につけている人を求めます。

- ・ 高等学校における履修内容を理解し、その知識や実技能力を身につけている。
 - ・ ものごとを複数の視点から考察し、自ら判断することができる。
 - ・ 考えや気持ちを的確に表現することができる。
 - ・ 人間の諸活動と社会や文化の形成について関心があり、社会に積極的に貢献する意欲がある。
 - ・ 様々な活動に主体的に取り組めるとともに、共感性や思いやりの心をもって行動できる。
- これらを判断するために、以下のような基本方針で入学者の選抜を行っています。

2. 入学者選抜の基本方針

総合人間形成課程では、求める学生像に基づき、一般入試（前期日程）、一般入試（後期日程）、特別選抜（推薦入試Ⅰ）等の多様な選抜方法により入学者を選抜します。

到達目標に達するためのカリキュラム方針（カリキュラム・ポリシー）

教育学部の達成目標に到達させるために、カリキュラム・マップ（別冊資料）に示すように授業科目が編成されています。カリキュラムは以下の3つの柱で構成されています。

● 学びの入口での道標提示・出口保証に関する科目【キャリア形成】

1年次前期に共通教育科目の「初期セミナーB」において大学教育というものについて触れ、その後、課程のコアカリキュラムである「自己開発科目」の「カリキュラム設計科目」に引き継ぎます。1年次後期の「カリキュラム設計演習」では、学生に主専攻領域を選択する材料を与えながら、学生自身にも自己設計するために必要な活動（授業見学、オフィスアワー訪問）を行ってもらい、最終的に4年次までの仮の履修計画を立てます。2年次前期の「領域入門演習」においては選択した主専攻領域の学びの見取り図を見ながら、自分の履修計画をさらに深化させます。4年次後期の「卒業研究B」においては、それまでの自律的な履修の総まとめを行い、大学での学びから得たものについて総合的にまとめ、公表します。

● 専門性を主に修得する科目【専門的力量】

「専門領域科目」54単位を学修していきますが、その際に「主専攻となる領域の科目から38単位分は習得しなければならない」という決まり以外は、主専攻領域内の細分化は行っていません。また他領域の履修についても16単位分は自由に行うことができます。さらに「学部選択科目」（教育学部の中から自由に取得できるもの）を8単位にすることで、自由度をさらに強くしています。

このような柔軟な履修カリキュラムの中で、自律性を重視しながら、学生が学修・研究テーマを自ら設定し、それにふさわしい授業を自ら選択するという行為を重視しています。そのような幅広い学び方を可能にする前提として、課程のコアカリキュラムである「自己開発科目」の中に「基礎力養成科目」（「論理的思考演習」「実証的研究演習」「実証的調査検証演習」「科学的思考演習」「芸術表現演習」「情報メディア演習」）を用意して、それらが選択必修になっており、学問的な思考や態度を重点的に修得できる機会を確保しています。

● 実践力や自己省察を主に促進する科目【実践的力量】

課程のコアカリキュラムである「自己開発科目」の中に「実践力養成科目」を用意しています。2年次前期での「コミュニケーション演習」によって、教育という場面に特に重要で、学士力や社会人基礎力としても重要視され、実社会でも求められている基礎的コミュニケーション力を早期にトレーニングするようにしています。また、3年次に行う「メンタルヘルス実習」では、学生個々の精神的健康について内省を深める機会とし、自らが社会人となるにあたっての人格的な課題を発見し、必要な精神的弾力性を獲得できるようにします。

実際の現場での活動については、2年次後期に「プロジェクト研究Ⅰ」、3年次後期に「プロジェクト研究Ⅱ」を行います。これらの授業において、教員の指導や補助のもと、教養や専門性を活かした企画・立案・周知・実施・振り返りをできるだけ自律的に行い、実践力を向上していきます。

修了認定の基準（ディプロマ・ポリシー）

所定の単位を修め、教育学部の達成目標に到達した者に対して学位を授与します。学位授与ポリシーに定めた知識、技能等の力量を修めたかどうかという出口保証については、所定の単位修得に加えて、各課程・専攻の卒業論文・卒業研究で確認すると同時に、4年次後期に総合人間形成課程では「卒業研究B」という授業科目を設定しており、明確に確認できるよう留意しています。

教育学部カリキュラム・ツリー

